第86回 医学教育セミナーとワークショップ in 富山大学

2023年10月6日(金)・7日(土) 6日：杉谷キャンパス／7日：五福キャンパス

参加登録期間 2023年8月28日(月)～9月7日(木) ［事前登録制］

2023 秋

Seminar
10/6(金) 17:30-19:00

日本のLongitudinal Integrated Clerkshipの在り方を考える！～本当の地域実習とは？～
CD 高村昭輝(富山大学)／吉村　学(宮崎大学)／山本憲彦(三重大学)／祝迫実紗代(富山大学)

Workshop
10/7(土) 9:00-12:00

WS-1 体験！とやまいぴー　ー多職種連携教育をデザインしようー
CD 三浦太郎(富山市まちなか診療所)／小浦友行(ごちゃまるクリニック)／清水洋介(南砺家庭・地域医療センター)／大村裕佳子(金城大学)／關谷暁子(北陸大学)／堀田麻緒(富山西リハビリテーション病院)

WS-2 医学教育に「絵画観察」を取り入れてみよう
TL 北　啓一朗・齋藤麻由子(富山大学附属病院)／小川大志(南砺市民病院)

WS-3 医療者としての成長を促す早期体験実習を作ろう
CD 岡崎史子・齋藤あや・横野知江・上村顕也(新潟大学)

WS-4 医療安全教育を「再発見」する
ML 清水郁夫(千葉大学)／田中和美(群馬大学)／長島　久(富山大学)／磯部真倫(岐阜大学)

WS-5 地域医療リーダーに必要な社会科学の視点 第1弾～都市デザイン工学の視点～
ML 高村昭輝・近藤　諭(富山大学)／花里真道(千葉大学)／松山　泰(自治医科大学)／大西弘高(東京大学)

WS-6 地域における英語が話せない外国人医療教育の現状と課題について
ML 松崎淳人(東邦大学)／南谷かおり(りんくう総合医療センター)／糸魚川美樹(愛知県立大学)

Workshop
10/7(土) 13:00-16:00

WS-7 マルチモビディティをバランスよく見るための妄想力を鍛えるカンファレンス(通称マルモカンファレンス)をやってみよう！
TL 大浦　誠・小川太志・伊藤恭平・小川風吹・坂東　裕・平辻　寛(南砺市民病院)／武島健人(富山大学)／杉森公一・關谷暁子(北陸大学)／大村裕佳子(金城大学)／遠藤あゆみ・加藤敏明(金沢大学)／宮澤正咲(富山大学)

WS-8 医療者教育のための脱出ゲームの制作体験会
TL 淺田義和(自治医科大学)／村岡千種(藤田医科大学)

WS-9 事例検討を通じた研究倫理の学びを体験しよう
R 松井健志・遠矢和希・原田ひとみ(国立がん研究センター)／山本圭一郎(国立国際医療研究センター)／伊吹友秀(東京理科大学)／渡邉達也(北里大学)／武智研志(松山大学)／中田亜希子(東邦大学)

WS-10 生涯キャリアヒストリー法の実践－職業人生を振り返り／見通す－
ML 種村文孝(京都大学)／渡邊洋子(新潟大学)／池田雅則(兵庫県立大学)／犬塚典子(田園調布学園大学)／池田法子(足利短期大学)／柏木睦月(十文字学園女子大学)

WS-11 患者の語り映像を使った授業案を考えて、実際授業を体験しよう！
A 瀬戸山陽子(東京医科大学)／射場典子(聖路加国際大学)／佐藤幹代(自治医科大学)／中村千賀子・森田夏実(認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン)／高橋奈津子(神奈川県立保健福祉大学)／戸沢智也(獨協医科大学)／原田雅義(四條畷学園大学)／水野　光(関西医科大学)／山岡栄里(人間総合科学大学)／横井郁子(東邦大学)／吉田恵理子(長崎県立大学)

WS-12 問題付ICT臨床教材を作ってみよう
A 松山　泰(自治医科大学)／早稲田勝久(愛知医科大学)／林　幹雄(関西医科大学)

WS-13 若手医療教育者の挑戦
ML 木戸敏喜(富山大学)／山本幸近・小杉俊介(飯塚病院)／鈴木真紀(隠岐広域連合立隠岐病院)／安原大生(JCHO若狭高浜病院、福井大学)／菊川　誠(九州大学)

実施要項

第87回 岐阜(Web) 2024/1/18-20

第88回 岐阜(Web) 第25回教務事務職員研修 2024/5/22-24

第89回 愛知医大 2024 秋

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY
医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
TEL:058-230-6470 FAX:058-230-6468
E-mail:medc@t.gifu-u.ac.jp
MEDC 検索

Seminar　10月 6日(金) 17:30-19:00

日本のLongitudinal Integrated Clerkshipの在り方を考える！ ～本当の地域実習とは？～

高村昭輝（富山大学）吉村　学（宮崎大学）山本憲彦（三重大学）祝迫実紗代（富山大学）

概要：　日本でも地域医療実習はほぼ全ての大学で行われている。しかし、中には地域にある病院というだけで大学病院と変わらない規模で診療科ごとの短期間ローテーションで行われていることも少なくない。今回、三重大学（12-16週）、宮崎大学（12週）、富山大学（12週）で行われている長期地域滞在型プライマリ・ケア実習の実情（利点欠点など）を報告し、また、実際にその実習を行った学生からの報告も交えて、これから必要になる地域医療や地域枠学生の教育とこの実習の可能性について考えてみる。大学病院実習と地域実習の差異を明確にし、相補的な実習になるよう後半は参加者からの質疑応答も積極的に行い、各大学での地域医療実習の充実につなげる。

対象：　地域実習に関わる人（大学・地域医療機関で実習に関わりたい人（多職種））

アソシエイトポイント：CD 0.125

WS-1　10月 7日(土) 9:00-12:00

体験！とやまいぴー　ー多職種連携教育をデザインしようー

三浦太郎（富山市まちなか診療所）小浦友行（ごちゃまるクリニック）清水洋介（南砺家庭・地域医療センター）大村裕佳子（金城大学）關谷暁子（北陸大学）堀田麻緒（富山西リハビリテーション病院）

概要：　多職種連携教育（IPE）は、地域包括ケア社会において必要なスキルの習得を目的として、近年保健医療福祉系学科のモデルカリキュラムにも取り入れられています。
しかし、連携先の確保が難しいなどの理由から、十分なIPEが実施できていない現状があります。私たちは2014年から富山県・石川県の保健医療福祉系学生を対象としたIPE「とやまいぴー・あいまいぴー」を定期開催しており、現在までに延べ1000人以上に参加していただきました。COVID19により対面での実施が困難となってからは、他県の団体とつながり「まいぷるプロジェクト https://ipetest.wpx.jp/」に発展しています。
今回は、実際にどのような構成で実施をしているのか、ポスターツアーという発表方法も含めて体験していただきます。そして、様々な学校との連携や、継続的な運営などについてもお伝えしつつ、意見交換が出来たらと思っています。

対象：　多職種連携教育に興味のある実務者　　定員：40名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-2　10月 7日(土) 9:00-12:00

医学教育に「絵画観察」を取り入れてみよう

北　啓一朗・齋藤麻由子（富山大学附属病院）小川大志（南砺市民病院）

概要：　日常臨床では思い込みを防ぎ、事実だけを抽出してストーリーを組み立てることが重要です。しかし実際の臨床現場は混沌としており、些末な情報や先入観、バイアスに振り回されることがしばしばです。ケース・スタディや教育カンファではあらかじめ整理された情報が与えられるので、参加者は現場の大変さを追体験できません。
「絵画観察」とは臨床医の観察力を高めるためのトレーニングであり、いわゆる芸術鑑賞ととは異なります。医学教育における「絵画観察」の有用性は海外では2000年代からJAMAやJ Gen Intern Medなどに実践報告があり、日本では森永康平先生が教育コンサルティングとしてアート鑑賞を取り入れられています。
ワークショップでは前半に「絵画鑑賞」全般と当科での実践を紹介し、後半は参加者を交えての絵画鑑賞を行います。ゆるいWSなので、肩肘はらずに楽しんで頂ければ幸いです。

対象：　臨床医としての観察力を高めたい研修医、教えたい指導医　　定員：20名

アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-3　10月 7日(土) 9:00-12:00

医療者としての成長を促す早期体験実習を作ろう

岡崎史子・齋藤あや・横野知江・上村顕也（新潟大学）

概要：　医療系大学で早期体験実習を取り入れている大学は数多くありますが、どのような早期体験実習がその後の医療者としての成長を促すでしょうか。本WSでは役割理論に焦点を当てて、低学年の医療系学生が医療者としての役割を認識、獲得していくのにどのような実習を構築することが望ましいのか、また実習後の省察をどのようにしたらよいのかを考えます。

対象：　医療系教員で早期体験実習をブラッシュアップしたい方　　定員：30名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-4　10月 7日(土) 9:00-12:00

医療安全教育を「再発見」する

清水郁夫（千葉大学）田中和美（群馬大学）長島　久（富山大学）磯部真倫（岐阜大学）

概要：　米国IOMの報告書「To err is human（人は誰でも間違える）」から四半世紀。医療安全とは責任追及でなく事故再発予防と医療の質向上のためにあると、医療者の間では概ね定着しました。一方で、業務手順の逸脱を減らすことで事故を減らす目論みは、期待されたほどの効果を上げていないのも事実です。その理由として、医療のリスクは個々の手順の良し悪しだけでなく、行動科学や人間工学など、医療に影響するあらゆる要素が関わることがわかってきました。すなわち、医療安全とは、医療全体に内在する営みなのです。
その観点で医療安全教育を見直すとどうでしょうか。「医療安全を教える」だけでなく、従来の医療に内在する安全向上のための要点を意識し、取り扱うことで、さらに前進できるのではないでしょうか。本ワークショップでは、この見地に立ち、既存の医療者教育実践の中で医療安全にかかる能力を涵養するためにできることを見出し、促進させることを目指します。

対象：　ヒトを対象とする医療専門職の卒前教育に関わる方（職種は問いません）
卒前教育や医療安全教育に関心のある方であれば、卒後・生涯教育を主なフィールドとする方でも歓迎いたします

定員：20名

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-5　10月 7日(土) 9:00-12:00

地域医療リーダーに必要な社会科学の視点 第1弾～都市デザイン工学の視点～

高村昭輝・近藤　諭（富山大学）花里真道（千葉大学）松山　泰（自治医科大学）大西弘高（東京大学）

概要：　地域で医療を実践するにあたり、医療という狭い視点だけでなく、地域全体を様々な観点から俯瞰することは重要である。しかし、昨今は地域診断などもさかんに行われているが、医療者がそのような観点を学ぶ機会はあまり多くない。今回、都市デザイン工学と健康都市空間デザインの専門家を迎え、都市デザインの最先端の話題提供、そして、自らの地域を都市デザインの観点から分析する方法を学び、実際に分析し、健康な地域に近付けることができる能力を身につける。学修方略としては全体講義とグループワークを行う。

対象：　医療機関、行政など地域医療に関わる全ての職種

定員：20名

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-6　10月 7日(土) 9:00-12:00

地域における英語が話せない外国人医療教育の現状と課題について

松崎淳人（東邦大学）南谷かおり（りんくう総合医療センター）糸魚川美樹（愛知県立大学）

概要：　現在外国人医療教育では医学英語と優しい日本語教育が積極的に行われている。一部の都市部を除き地方医療ではむしろ英語が話せない外国人の医療への対処が喫緊の課題である。ICや難解な医療説明シーンには患者母国語での介入が必要である。コロナ禍において急減した外国人労働者も今後急速に入国数の増加が予想されている。都市部では非英語医療通訳者の確保も一定程度可能だが、地方における非英語話者の外国人医療は医療通訳者の確保も制限が多く、家族通訳・知人通訳に頼らざるを得ないなど課題は山積で、都市部以上に重要な課題である。当WSでは、医師に限らず広く医療従事者・医療関係者に対して本邦の非英語外国人医療の課題について概説し、医療通訳を補う医療翻訳デバイス・遠隔医療通訳システム、派遣医療通訳などの支援サービスを紹介し、その適正な利用方法について議論を行い、課題の整理と課題への対処法を議論していく。

対象：　外国人対応を経験したOR今後係わりたい医療従事者等
（医師・歯科医師・医療系学生・看護師・コメディカル・医療通訳者など）

定員：36名

アソシエイトポイント：ML 0.25

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY

WS-7　10月 7日(土) 13:00-16:00

マルチモビディティをバランスよく見るための妄想力を鍛える カンファレンス(通称マルモカンファレンス)をやってみよう！

大浦　誠・小川太志・伊藤恭平・小川風吹・坂東　裕・平辻　寛（南砺市民病院）武島健人（富山大学）杉森公一・關谷暁子（北陸大学）大村裕佳子（金城大学）遠藤あゆみ・加藤敏明（金沢大学）宮澤正咲（富山大学）

概要：　日々の診療において多疾患併存(マルチモビディティ:以下マルモ)の患者は避けて通れません。複数のプロブレムの中から優先順位をどうつけるのか。不確実な中で患者と意思決定をどのように行うのか。過不足のない介入になるために複数の医師や医療・介護福祉専門職との連携・協働をどのように行うのか。まさに総合力を試されます。
本WSでは医学書院の週刊医学界新聞で「ケースで学ぶマルチモビディティ」で連載している筆者の病院で総合力を身につけるために実施している「マルチモビディティをバランスよく見るための妄想力を鍛えるカンファレンス（通称マルモカンファレンス）」を実演し、参加者同士の対話を繰り返すことで、マルモのみかたについて学んでいただきます。
マルモ診療を知りたい専攻医や医学生、マルモについて勉強してみたい多職種、マルモカンファレンスを導入したい指導医の皆様も是非ご参加ください。（どのような職種でも楽しめます）

対象：　マルチモビディティ診療を学びたい専攻医や医学生、多職種、指導医　　定員：　　名

アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-8　10月 7日(土) 13:00-16:00

医療者教育のための脱出ゲームの制作体験会

淺田義和（自治医科大学）村岡千種（藤田医科大学）

概要：　脱出ゲーム / Escape Roomは、制限時間内に部屋からの脱出などの「目標」を達成するために、テーマに沿ったパズルや謎などの「タスク」を遂行するチームベースのゲームである（NICHOLSON 2015）。近年、知識のみならず、技能・態度にも活用可能な教育方略として、脱出ゲームを活用した教育事例が国内外で報告されている.一方、脱出ゲーム利用教育を行うには、ゲームで活用するタスクの準備や教育コンテンツとしての全体設計・運営などの課題がある。今回はその1つであるタスクの準備に焦点をあてたワークショップを行う。参加者は脱出ゲームのタスク作成を体験した後、相互利用体験を通じて作成したタスクのブラッシュアップを行う。最後に、脱出ゲームの活用方法についてディスカッションをする。本ワークショップを通じて、脱出ゲームの要素を一部でも自身の教育に取り入れたいと感じていただければ幸いである。

対象：　医療者教育に脱出ゲームを取り入れたいと考えている方　　定員：20名

アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-9　10月 7日(土) 13:00-16:00

事例検討を通じた研究倫理の学びを体験しよう

松井健志・遠矢和希・原田ひとみ（国立がん研究センター）山本圭一郎（国立国際医療研究センター）伊吹友秀（東京理科大学）渡邉達也（北里大学）武智研志（松山大学）中田亜希子（東邦大学）

概要：　令和4年度改訂の医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「科学的探究」の中で「適切な研究遂行」が項目として挙げられ、適切な研究遂行や対象者保護の観点が明確に提示されています。研究者への研究倫理教育はだいぶ浸透してきましたが、e-learningによる学修機会が多いのが現状です。将来研究に携わることになる医学部生、医療系学部生を対象にした授業はどのように組み立てればよいのでしょうか。本ワークショップでは、研究倫理コンサルタント養成の研修会を実践しているタスクが参画し、責任ある研究活動に関する教育をアクティブラーニングで実施するヒントを共有します。責任ある研究活動に関する教育の要点を共有したあと、被験者保護の観点が含まれる事例検討を行っていただきます。研究倫理教育に関心のある方、是非ご参加ください。

対象：　研究倫理教育（学部生を含む）を担当する医療系教員　　定員：15名

アソシエイトポイント：R 0.25

WS-10　10月 7日(土) 13:00-16:00

生涯キャリアヒストリー法の実践－職業人生を振り返り／見通す－

種村文孝（京都大学）渡邊洋子（新潟大学）池田雅則（兵庫県立大学）犬塚典子（田園調布学園大学）池田法子（足利短期大学）柏木睦月（十文字学園女子大学）

概要：　自身の生涯キャリアについて、キャリアカウンセリングの一手法であるタイムライン法を参考に開発した生涯キャリアヒストリー法フォーマットを用いて振り返る。本ワークショップの特徴は、LIfelongかつLifewideな観点から、これまでの仕事と人生を把握するところにある。個人ワークで、「転機となった出来事」や「長期的に影響を与えてきたこと」に注目して、職業人生の流れを振り返るとともに、今後のキャリアにおける軸や展望について検討する。その後、他の参加者とワークを通しての気づきやキャリアに影響を与えている要因について対話し、自分の考えを振り返りつつ、多様な価値観や歩みを理解し、自らのキャリアを長期的な視点でとらえ直したり、キャリア支援を再考す

る契機とする。

対象：　自身のキャリアを振り返りたい医療職全般、キャリア支援に携わる者　　定員：30名

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-11　10月 7日(土) 13:00-16:00

患者の語り映像を使った授業案を考えて、実際授業を体験しよう！

瀬戸山陽子（東京医科大学）射場典子（聖路加国際大学）佐藤幹代（自治医科大学）中村千賀子・森田夏実（認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン）高橋奈津子（神奈川県立保健福祉大学）戸沢智也（獨協医科大学）原田雅義（四條畷学園大学）水野　光（関西医科大学）山岡栄里（人間総合科学大学）横井郁子（東邦大学）吉田恵理子（長崎県立大学）

概要：　本ワークショップでは、患者の語りの映像教材を用いた授業案について検討し、実際に授業を受ける体験をして、その経験を今後の授業に活用することを目的とする。
医療者教育では、患者や当事者が自らの言葉で紡ぐ語りにふれることで、専門職として求められるプロフェッショナリズムの涵養が重要だと言われて久しい。令和4年度改訂版「医学教育モデル・コア・カリキュラム」では、その教材として患者の語りのデータベース（DIPEx）が挙げられている1)。DIPExは、これまで医学・看護学・薬学など多くの授業で使われてきた2)。本ワークショップでは、教育者側がDIPExの患者の語り映像を用いて授業案を作り、メンバーを入れ替えて学習者として体験する。同時に教育側が設定した評価項目を、学習者が体現できたかを検討する。
本WSに参加することで、教育側・学習者側を体験し、教育現場で活用できる授業案を持ち帰ることが可能となる。

対象：　医学、看護学、薬学などの医療者教育に携わっている方・関心がある方　　定員：50名

アソシエイトポイント：A 0.25

WS-12　10月 7日(土) 13:00-16:00

問題付ICT臨床教材を作ってみよう

松山　泰（自治医科大学）早稲田勝久（愛知医科大学）林　幹雄（関西医科大学）

概要：　厚労科研費・河北班事業では、卒前臨床実習から卒後研修へとスムーズに移行させる目的でICTを活用した症例基盤教材を開発している。ICT活用のメリットは現場の動的な視聴覚情報を組込むことができ、学習記録を電子情報で残せる点である。
本WS受講者はグループワークで1症例分の動画・音声付臨床教材を作成する。参加は事前登録制として予めグループ編成する。Googleドライブ上に説明動画、マニュアル、作成途中の教材（Googleスライド）を用意しておき、事前グループワークで可能な範囲で教材を完成に近づける。
当日は、各グループの事前学習発表から始まり、主催者のフィードバック・質疑応答を行った後、教材を完成させる。WS当日に動画・音声素材の撮影も可能とする。

対象：　医療人教育の臨床実習教材を作成している方であれば職種は問わない　　定員：20名

アソシエイトポイント：A 0.25

WS-13　10月 7日(土) 13:00-16:00

若手医療教育者の挑戦

木戸敏喜（富山大学）山本幸近・小杉俊介（飯塚病院）鈴木真紀（隠岐広域連合立隠岐病院）安原大生（JCHO若狭高浜病院／福井大学）菊川　誠（九州大学）

概要：　研修医や専攻医は臨床現場において、指導医的な役割を持つことが多い。学修者とわからないことを共有できる「認知的近接性」と、長い時間と空間を共有できる「空間的近接性」を背景とした、Near-Peer としてのはたらきが注目され、研修医や専攻医のための指導スキル向上を目的としたプログラム、Residents-as-Teachersプログラムは世界中で展開されている。我々は研修医や専攻医にとって必要な指導スキルが何かを研究で明らかにし、その結果を元に1年間のフェローシップを運営してきた。規模は徐々に拡大し、2020年にCOVID-19の影響でオンライン化した後も高い満足度を得た。本ワークショップではフェローシップを修了した若手たちのその後に注目し、修了生たち自身の変化や自施設での取り組みを紹介する。また参加者にグループワークを通じて、若手による教育についてのアクションプランを考案、共有する場としたいと考えている。

対象：　我こそは若手と思う医療教育者、若手のことがわからなくなってきた医療教育者
（主に医師教育をテーマにしていますが参加職種は問いません）　　定員：30名

アソシエイトポイント：ML 0.25

参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください
「MEDC」で簡単検索できます

参加登録期間：2023年8月28日(月)～9月7日(木)

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受付いたしません。

参加費：　2,000円
（学部学生、東海国立大学機構教職員大学院生　無料）

会　場：　10/6(金) セミナー会場　　杉谷キャンパス
　　10/7(土) ワークショップ会場　五福キャンパス

高岡キャンパス

杉谷キャンパス

セミナー会場：

富山大学　杉谷キャンパス
〒930-0194　富山市杉谷2630番地

アクセス方法：

五福キャンパス

ワークショップ会場：

富山大学　五福キャンパス
〒930-8555 富山市五福3190番地

アクセス方法：